ごあいさつ

仙台市長

郡　　和子

仙台市の水道事業は、大正12（1923）年3月に給水を開始してより、今年で100周年を迎えました。仙台藩祖・伊達政宗公によって城下にはりめぐらされた『四ツ谷用水』に起源を有する本市水道は、地震や大雨、渇水や寒波といった自然災害や、戦争をはじめとする激動の時代を乗り越え、市勢の発展に伴って増加する水需要に対処すべく、新たな水源を求め、数次にわたる拡張事業に取組んでまいりました。今日の水道事業の基礎を築かれた多くの先人たちに深く敬意を表するとともに、この間、多大なるご理解とご支援を頂戴した市民の皆さま、そして関係機関・団体・業界の皆さまに心よりの感謝を申し上げます。

本市の水道事業は、市民の暮らしと地域の経済活動を支える基盤として大きな役割を果たしてまいりましたが、その存在は、皆さまの「命」をつなぐ、まさに「ライフライン」として、今後ますます重要になるものと考えており、50年先、そして100年先の未来にも、確実に引き継がれていかなければなりません。

「100年」という節目を刻む今、改めて水道事業が担うべき大きな責任に思いを致し、さらに厚い信頼を寄せて頂けますよう、全力を傾注してまいりたいと決意を新たにする次第です。

今後とも、本市水道事業に対する市民の皆さま、関係各位の温かなお力添えをよろしくお願い申し上げます。

発刊にあたって

水道事業管理者
佐藤　伸治

広瀬川の支流である大倉川の表流水に水源を求めた仙台市の近代水道は、大正2（1913）年の創設工事着手後、多大な労苦と10年に及ぶ年月を費やし、大正12（1923）年3月に晴れて本格的な給水を開始いたしました。

それから「100年」という記念すべき節目を刻むに当たり、次の100年に向けたさらなる発展への願いを込め、本市水道の礎を築き上げてきた多くの先達の取組みを振り返るとともに、これまでの歩みの一端を広くご紹介するため、小史『仙台市水道100年のあゆみ』を刊行いたしました。

今後とも、安全・安心な水道水を安定してお届けするという責務を全うし、お客さまサービスの一層の充実を図りながら、よりよい地域づくりに貢献してまいりたいと全職員を挙げて決意を新たにする次第です。

お客さま並びに関係の皆さまにおかれましては、仙台市の水道事業に、なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

目　　次

はじめに
ごあいさつ　　仙台市長…… 2
発刊にあたって　　水道事業管理者…… 3
目次・凡例…… 4

第１章　通史

１．仙台の水道のはじまり…… 8
　⑴四ツ谷用水
　⑵上水道の建設計画策定
　⑶創設事業
　⑷給水開始と水不足の懸念
２．第一次拡張事業……12
　⑴第一次拡張事業
　⑵第一次拡張事業後の給水状況
　⑶仙台空襲
３．第二次拡張事業……14
　⑴戦後復旧と水不足
　⑵第二次拡張事業
　⑶なおも続いた水不足と臨時応急水源拡張工事
４．第三次拡張事業……16
　⑴恒久的な水不足の解消に向けて
　⑵第三次拡張事業
５．第四次拡張事業……18
　⑴さらなる水源の確保
　⑵第四次拡張事業
６．第五次拡張事業……20
　⑴仙台の発展と増加する水需要
　⑵政令指定都市への移行と拡張事業
７．近年の仙台市水道……22
　⑴維持管理の時代
　⑵東日本大震災と今後の運営

第２章　テーマ史

１．基本計画に基づく事業経営……26
　⑴仙台市水道事業基本計画（平成４年度～平成12年度）の策定
　⑵仙台市水道事業基本計画（平成12年度～平成21年度）の策定
　⑶仙台市水道事業基本計画（平成22年度～平成31年度）の策定
　⑷仙台市水道事業基本計画（令和２年度～令和11年度）の策定
２．宮城県「仙南・仙塩広域水道用水供給事業」……30
　⑴広域水道の構想
　⑵事業計画と難航する工事
　⑶給水開始と近年の状況
３．水道料金の変遷と展望……32
　⑴初期の水道料金
　⑵終戦後のインフレによる相次ぐ料金改定
　⑶水道料金体系の検討
　⑷水道加入金・開発負担金制度の創設
　⑸近年の料金改定と減免
　⑹持続可能な経営基盤の確立に向けて
４．お客さまサービスの拡充……35
　⑴水道料金支払いの利便性向上
　⑵お客さま窓口の拡充
５．広報活動の推進……38
　⑴仙台市水道局コミュニケーション戦略の策定
　⑵水道フェア
　⑶広報紙「仙台の水道 H_2O」の発行
　⑷水道記念館の開館
　⑸おふろ部の発足
６．安全でおいしい水をお届けするために……42
　⑴水質管理の徹底
　⑵水源保全の取組み
７．災害に強い水道づくり……44
　⑴災害と仙台市水道のあゆみ
　⑵宮城県沖地震と仙台市水道
　⑶東日本大震災と仙台市水道
　⑷他都市や関係機関との連携
　⑸災害対策のさらなる強化
８．国際貢献の取組み……50
　⑴海外研修員の受入れ
　⑵国連防災世界会議への参画

第３章　資料編

歴代市長……56
歴代水道事業管理者……57
組織体制の主な変遷……58
職員数の推移……66
主な施設配置と水源系統……67
拡張事業と施設能力の変遷……69
浄水場と主な施設の概要……72
給水人口と総配水量の推移……74
管路総延長の推移……76
給水区域の変遷……78
水道料金の変遷……85
事業収支の推移……88

第４章　年表編

年表……92

おわりに
索引……122
参考文献・写真提供……125
編集後記・奥付……126

凡　　例

（主な出典に関する記載）

●本書通史は、『仙台市水道五十年史』（昭和 48 年 11 月 19 日仙台市水道局発行）を基本文献とし、記述した。
●テーマ史は、主に第五次拡張事業以降の取組みを記述した。

（期間に関する記載）

●通史、テーマ史、資料編、年表編の記述期間と統計数値の掲載期間は、令和３年度末までを原則とした。

（標記に関する記載）

●人名に係る敬称は、省略した。
●会社名・団体名・組織名称等は、各節の初出時は法人格を省略せずに表記した。
●会社名・団体名・組織名称・自治体名・地名・施設名称等は、参考文献の名称を原則とし、参考文献によらない場合は、現在の名称または記載内容当時の名称を表記した。
●通史及びテーマ史の年次の表記は、和暦を原則とし、各節の初出時に西暦を併記した。
●数値の表記は、アラビア数字を原則とした。
●概数は、億、万等の漢字を併用した。
●単位表記は、㎡、t、%、㎞などの記号を用いた。
●引用文においては原文の表記を採用しており、本凡例と整合しない場合がある。
●漢字の表記は常用漢字を原則としたが、固有名詞や熟語については常用外の漢字も併用した。
●数表の値は単位未満四捨五入とし、数表中単位未満は「0」、マイナスは「△」、不詳は「―」で表記した。
●本書の「現在」の時点は、原則として令和３年度末現在とした。

給水開始
100th